



平成20年8月5日

各位

会社名 小野薬品工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 福島 大吉
(コード番号 4528 東証・大証一部)
問合せ先 取締役広報室長 森本 公也
(TEL:06-6263-5670)
(FAX:06-6263-2950)

平成21年3月期 第2四半期累計期間および通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月14日に発表しました平成21年3月期 第2四半期累計期間および通期業績予想を下記のとおり修正します。

1. 連結業績予想

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) 平成20年5月14日発表	69,300	23,100	24,800	16,400	144 円 65 銭
今回修正予想(B)	65,800	19,500	21,200	14,200	127 円 18 銭
増減額(B-A)	△3,500	△3,600	△3,600	△2,200	
増減率	△5.1%	△15.6%	△14.5%	△13.4%	
前年同期間実績	71,329	26,469	27,953	17,175	149 円 46 銭

通期

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) 平成20年5月14日発表	143,000	46,100	49,100	32,100	283 円 14 銭
今回修正予想(B)	134,400	39,600	42,600	28,400	255 円 37 銭
増減額(B-A)	△8,600	△6,500	△6,500	△3,700	
増減率	△6.0%	△14.1%	△13.2%	△11.5%	
前期実績	145,897	52,286	55,103	35,046	306 円 80 銭

2. 個別業績予想

第2四半期累計期間

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) 平成20年5月14日発表	68,500	22,800	24,500	16,300	143 円 76 銭
今回修正予想(B)	65,000	19,200	20,900	14,100	126 円 27 銭
増減額(B-A)	△3,500	△3,600	△3,600	△2,200	
増減率	△5.1%	△15.8%	△14.7%	△13.5%	
前年同期間実績	70,482	26,113	27,641	17,104	148 円 80 銭

通期

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) 平成20年5月14日発表	141,200	45,400	48,400	31,900	281 円 35 銭
今回修正予想(B)	132,600	38,900	41,900	28,200	253 円 55 銭
増減額(B-A)	△8,600	△6,500	△6,500	△3,700	
増減率	△6.1%	△14.3%	△13.4%	△11.6%	
前期実績	144,134	51,630	54,521	34,900	305 円 45 銭

3. 修正の理由(連結決算)

当初、今年度通期の売上高につきましては、主要製品である末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」や手術時および術後頻脈性不整脈治療剤「注射用オノアクト」、さらには昨年6月に新発売しました過活動膀胱治療剤「ステーブラ錠」を中心に売上拡大を図るものの、本年4月に実施されました薬価基準の引き下げ(当社5%台半ば)や後発品の影響などにより、前期比28億円(2.0%)減の1,430億円を見込んでおりました。

また、営業利益につきましては、売上原価を前期比5億円(2.6%)増の214億円、販売費及び一般管理費を前期比27億円(3.8%)増の755億円(うち、研究開発費は前期比26億円(6.7%)増の416億円を計画)と見込むことにより、前期比61億円(11.8%)減の461億円を予想しておりました。

さらに、経常利益につきましては、当期に前期とほぼ同額の営業外収支が見込まれることから、前期比60億円(10.9%)減の491億円を予想しておりました。

なお、特別損益につきましては、当期には投資有価証券売却益25億円の計上を予定しておりますが、前期の特別損益が44億円の利益計上であったため、当期は利益が19億円減少する見込みです。

以上のことから、当期純利益につきましては、前期比29億円(8.4%)減少の321億円を予想しておりました。

しかしながら、当第1四半期においては、後発品使用促進策が進展するなか、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」について、潜在市場の開拓活動による売上拡大が思うように進まなかったこと、

また、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」、(小児)気管支喘息治療剤「オノンドライシロップ」については、競合品との競争激化により想定を上回るマイナス影響が出たことなどにより、売上高は、前年同期比26億円(6.9%)減の356億円となりました。

また、営業利益につきましては、売上原価が前年同期比4億円(7.7%)増の58億円となったこと、販売費及び一般管理費が前年同期比8億円(5.3%)増の173億円(うち、研究開発費は前年同期比4億円(5.3%)増の84億円)となりました結果、前年同期比39億円(23.9%)減の124億円となりました。

さらに、経常利益につきましては、受取利息及び受取配当金が前年同期比で2億円増加したこと等により、前年同期比36億円(21.1%)減の137億円となりました。

なお、特別損益につきましては、当第1四半期に投資有価証券売却益4億円を計上しました。

これらの結果、当第1四半期純利益は、前年同期比17億円(16.9%)減少の87億円となりました。

当社といたしましては、今後、主力製品を中心に活動入力を一層強化し、引き続き潜在市場の開拓による売上拡大に努めてまいります。当第1四半期の業績が予想以上に悪かったこと、また、後発品使用促進策のさらなる浸透や企業間競争の激化など、当社事業環境が今後一段と厳しさを増すことも想定されますことから、今年度の第2四半期累計期間及び通期の売上高予想を修正することにしました。

また、今回、国内外で開発を進めておりました「ONO-2333Ms(予定効能:うつ病・不安障害)」の開発を中止したことなどにより、当初予定していました研究開発費(416億円)を396億円に修正しましたことから、今年度第2四半期累計期間および通期の利益予想(営業利益・経常利益・純利益)についてもそれぞれ修正しております。

注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上